

授 業 科 目 名	中等社会・地理歴史科教育法 I (Social Studies, Geography and History in Secondary School I)		
科 目 番 号	9441101	授 業 形 態	講義・演習
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	水曜・1 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学		
担 当 教 員 (連 絡 先)	井田 仁康		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木3		
授 業 の 到 達 目 標	中学校社会科、地理歴史科の教員に必要な基本的知識や資質について理論的に、実践を踏まえながら解説する。また、社会科・地理、歴史の各分野に必要とされる具体的な技能や方法を実践的に扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を、理論的かつ実践的に明らかにしていくことが本研究の目的となる。		
授 業 の 概 要	本授業は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について理論的に、実践を踏まえながら解説する。また、社会科・地理歴史科に関するテーマについて討論を取り入れ、演習の形態とする。		
授 業 計 画	第1回: 社会科と地理歴史科の関係 第2回: 映画にみる社会科の目標 第3回: 学習指導要領の検討 第4回: 野外観察 第5回: 野外観察と入試問題 第6回: 野外観察の意義 第7回: 社会科・地理歴史科教育史 (I) - 社会科の成立から初期社会科まで 第8回: 社会科・地理歴史科教育史 (II) - 1955年度以降の社会科・地理歴史科の変遷 第8回: 教科書と関連づけた学習指導案の作成方法 第9回: 社会科・地理歴史科の課題に関する討論 第10回: 討論の振り返り 定期試験		
成 績 評 価 方 法	試験(70%)、レポート(30%)を総合して行う。		
テ キ ス ト	文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説社会編』東洋館出版社 文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』(最新版)		
参 考 文 献	日本社会科教育学会編(2012)『新版社会科教育事典』ぎょうせい		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	新聞などで教育動向を把握しておくこと。教育内容や方法について友人らと議論すること。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	教職科目なので、教職に就く、あるいは関心が高いことを前提にしている。それなりの意欲で取り組んでほしい。		
備 考			

授 業 科 目 名	中等社会・地理歴史科教育法Ⅱ (Social Studies, Geography and History in Secondary Education II)		
科 目 番 号	9441201	授 業 形 態	講義
単 位 数	2 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 AB, 秋 C	曜 時 限	水曜・1 時限, 水曜・1、2 時限
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	國分 麻里(kokubu@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	事前にメールで連絡をください		
授 業 の 到 達 目 標	到達目標は、中等社会科・地理歴史科の教員として、教科の特色を理解し、教師としてどのようなことを考え、教えることを実践的に学ぶことである。社会科・地理歴史科の特色を学ぶこと、社会科・地理歴史科教員として実践的に学ぶことがテーマとなる。		
授 業 の 概 要	本授業は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について理論や実践を学ぶ。単に教科の特色に関する内容や方法を講義式で学ぶだけでなく、授業を行いながら、教師としての実践的な力を養う。		
授 業 計 画	第1回 社会科・地理歴史科の歴史 第2回 初期社会科の検討 第3回 学習指導要領の目標や内容についての検討 第4回 中学校歴史分野の内容 第5回 中学校歴史分野の方法と実践例 第6回 高校歴史総合の内容 第7回 高校歴史総合の方法と授業実践例 第8回 高校歴史総合の授業実践(内容・方法)分析 第9回 高校歴史総合の授業実践(評価)分析 第10回 中学校歴史分野・高校歴史総合の学習内容や方法についてのまとめ 第11回 教材研究の方法 ー情報機器及び教材の活用 第12回 学習指導案の作成 ー地理・歴史内容 第13回 学習指導案の検討 ー地理・歴史内容 第14回 学習指導案の評価 ー地理・歴史内容 第15回 授業・振り返り ー地理・系統地理内容 第16回 授業・振り返り ー地理・人文地理内容 第17回 授業・振り返り ー前近代内容 第18回 授業・振り返り ー近現代内容 第19回 授業・振り返り ー地理総合・歴史総合 第20回 中学校社会・高校地理歴史のまとめ 定期試験		
成 績 評 価 方 法	試験(50%)、レポート(25%)、授業態度(25%)、出席(単位認定の資格要件)を総合して行う。		
テ キ ス ト	授業内容にしたがい、適宜プリントを配布する。		
参 考 文 献	・日本社会科教育学会編(2012)『新版社会科教育事典』ぎょうせい ・文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』東洋館出版社 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	・紙の新聞や月刊雑誌などを読み、TVのニュースも見て、積極的に多様な講演を聞きに行く。 ・歴史学の通史を読む。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	・授業内容は学生の状況にしたがい、変動する。積極的な姿勢で授業に臨むこと。 ・「学生」から、授業をコントロールする「教師」へ移行するための授業です。教師の気持ちと立場から授業に臨んでください。		
備 考			

授 業 科 目 名	中等社会・公民科教育法 I (Social Studies and Civics in Secondary Education I)		
科 目 番 号	9442101	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	水曜・1時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群・学類		
担 当 教 員 (連 絡 先)	唐木 清志		
オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜 15:00-18:00		
授 業 の 到 達 目 標	中学校社会科及び高等学校公民科の理論と方法、現代社会におけるそれらの科目の役割を理解することで、授業づくりを進める上での基盤づくりを進めることができる。		
授 業 の 概 要	学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の性格、中学校社会科及び高等学校公民科の歴史や具体的な授業実践例などについて、教員の講義を中心に授業を進める。		
授 業 計 画	第1回:学習指導要領にみられる中学校社会科及び高等学校公民科の教育目標と教育内容 第2回:社会科及び公民科の歴史Ⅰ(社会科誕生の経緯と初期社会科の性格) 第3回:社会科及び公民科の歴史Ⅱ(社会科教育課程の変遷) 第4回:社会科及び公民科の歴史Ⅲ(近年の社会科及び公民科の動向と社会参画の視点) 第5回:社会科及び公民科の教材研究と学習指導案の作成Ⅰ(法的内容と法教育) 第6回:社会科及び公民科の教材研究と学習指導案の作成Ⅱ(政治的内容と主権者教育) 第7回:社会科及び公民科の教材研究と学習指導案の作成Ⅲ(経済的内容と金融経済教育) 第8回:社会科及び公民科の教材研究と学習指導案の作成Ⅳ(国際的内容とグローバル教育) 第9回:社会科及び公民科におけるアクティブ・ラーニング(情報機器及び教材の活用) 第10回:模擬授業を通して考える社会科及び公民科教師に求められる資質・能力 定期試験		
成 績 評 価 方 法	定期試験(50%)、毎回の授業で提出する小レポート(50%)。		
テ キ ス ト	文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』東洋館出版社 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』(最新版)		
参 考 文 献	授業中に適宜資料を配布する。		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	授業終了後に授業内容を振り返るとともに、次回の授業範囲と関連する情報を事前に入手して、問題意識を高めた上で授業に参加すること。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	アクティブ・ラーニングを実施する際には、積極的に参加すること。		
備 考	免許法に基づく中学校(社会)及び高等学校(公民)の教員免許状取得に必要な「各教科の指導法」のうちの1単位に該当する。		

授 業 科 目 名	中等社会・公民科教育法Ⅱ(Social Studies and Civics in Secondary EducationⅡ)		
科 目 番 号	9442201	授 業 形 態	講義
単 位 数	2単位	標 準 履 修 年 次	3年次
実 施 学 期	秋 AB, 秋 C	曜 時 限	水曜・1時限, 水曜・12時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群・学類		
担当教員(連絡先)	唐木 清志		
オフィスアワー	月曜 15:00-18:00		
授業の到達目標	中学校社会科及び高等学校公民科の授業づくりを進める上で必要となる、教材研究、単元開発、評価方法等のスキルを身に付けることができる。		
授業の概要	中学校社会科及び高等学校公民科に関する教材研究、単元開発、評価方法等に関して教員が講義した上で、学生には実際に模擬授業を体験してもらい、授業づくりに必要とされる実践的なスキルを身に付けてもらう。		
授 業 計 画	<p>第1回: 中学校社会科及び高等学校公民科で今日求められている授業づくり</p> <p>第2回: 学習指導案の構成原理と作成にあたっての留意点</p> <p>第3回: 中学校社会科及び高等学校公民科授業における評価方法</p> <p>第4回: 教材研究及び単元開発の方法と留意点Ⅰ(中学校社会科の場合)</p> <p>第5回: 教材研究及び単元開発の方法と留意点Ⅱ(高等学校公民科「現代社会」の場合)</p> <p>第6回: 教材研究及び単元開発の方法と留意点Ⅲ(高等学校公民科「政治・経済」の場合)</p> <p>第7回: 教材研究及び単元開発の方法と留意点Ⅳ(高等学校公民科「倫理」の場合)</p> <p>第8回: 授業づくりとアクティブ・ラーニングⅠ(主体的な学習と学習問題づくり)</p> <p>第9回: 授業づくりとアクティブ・ラーニングⅡ(対話的な学習と協働学習)</p> <p>第10回: 授業づくりとアクティブ・ラーニングⅢ(情報機器及び教材の活用)</p> <p>第11回: 模擬授業の実施Ⅰ(中学校社会科)</p> <p>第12回: 模擬授業の振り返りと改善の視点に関する討論Ⅰ(中学校社会科)</p> <p>第13回: 模擬授業の実施Ⅱ(高等学校公民科「現代社会」)</p> <p>第14回: 模擬授業の振り返りと改善の視点に関する討論Ⅱ(高等学校公民科「現代社会」)</p> <p>第15回: 模擬授業の実施Ⅲ(高等学校公民科「政治」)</p> <p>第16回: 模擬授業の振り返りと改善の視点に関する討論Ⅲ(高等学校公民科「政治」)</p> <p>第17回: 模擬授業の実施Ⅳ(高等学校公民科「経済」)</p> <p>第18回: 模擬授業の振り返りと改善の視点に関する討論Ⅳ(高等学校公民科「経済」)</p> <p>第19回: 模擬授業の実施Ⅴ(高等学校公民科「倫理」)</p> <p>第20回: 模擬授業の振り返りと改善の視点に関する討論Ⅴ(高等学校公民科「倫理」)</p> <p>定期試験</p>		
成績評価方法	定期試験(50%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(30%)、模擬授業のために提出された学習指導案(20%)。		
テ キ ス ト	文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』東洋館出版社 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』(最新版)		
参 考 文 献	授業中に適宜資料を配布する。		
授業外における学習方法	授業終了後に授業内容を振り返るとともに、次回の授業範囲と関連する情報を事前に入手して、問題意識を高めた上で授業に参加すること。		
受講学生に望むこと	アクティブ・ラーニングを実施する際には、積極的に参加すること。		
備 考	免許法に基づく中学校(社会)及び高等学校(公民)の教員免許状取得に必要な「各教科の指導法」のうちの2単位に該当する。		

授 業 科 目 名	社会科地理指導法 (Social studies (Geography) Education)		
科 目 番 号	9443001	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋B	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類	全学		
担 当 教 員 (連 絡 先)	井田 仁康 (人間学系棟 B423 TEL 853-6731)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木3		
授 業 の 到 達 目 標	中学校地理的分野の特徴と目標、内容について概説し、地理教育にかかわる諸問題について考察を加え、教師としての地理的見方・考え方を養い、地理教育についての洞察を深めることを目的とする。		
授 業 の 概 要	<p>中学校社会科地理的分野の学習目的を、学習指導要領などから読み解き、地理の学習とは何かを明らかにする。そのうえで、学習内容、学習方法、学習プロセスについて考察をすすめ、最終的に地理を学習する意味を考える。</p> <p>なお、自分の考えなどをまとめてもらうために、随時、レポートなどをかき、受け身の授業だけでなく、自分から考えることを実践させる。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回 中学校社会科地理的分野の構造</p> <p>第2回 中学校社会科地理にもとめられる知識</p> <p>第3回 変わる学習指導要領</p> <p>第4回 地理的な見方・考え方</p> <p>第5回 景観・地図を読む</p> <p>第6回 系統地理的学習</p> <p>第7回 地誌的学習</p> <p>第8回 学習方法の工夫</p> <p>第9回 GIS と防災教育</p> <p>第10回 地理を学習する意味</p>		
成 績 評 価 方 法	レポート(80%) 授業態度(20%)の取り組み方を総合して行う。		
テ キ ス ト	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会科編』2018 年		
参 考 文 献	<p>井田仁康『究極の中学校社会科—地理編—』2013 年 日本文教出版</p> <p>井田仁康『中学校地理の雑談ネタ 40』2018 年 明治図書</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	新聞などで教育の動向をとらえておく。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	教職科目なので、教職に就く、あるいは関心が高いことを前提にしている。それなりの意欲で取り組んでほしい。		
備 考	旧課程の免許法に基づく中学校(社会)の教員免許状取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」(6 単位)のうちの 1 単位に対応する。		

授 業 科 目 名	社会科地理歴史指導法 (Social Studies, Geography and History in Junior High School)		
科 目 番 号	9443101	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	水曜・2 時限
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	國分 麻里(kokubu@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	事前にメールでの連絡をください		
授 業 の 到 達 目 標	中学校社会科の教員になるために、特に地理歴史の特色をよく理解する。加えて、自ら学習指導案や授業実践を行いながら、地理歴史の授業内容および方法の基礎を学ぶことを到達目標とする。すなわち、社会科地理歴史の特色を知り、教員になるための自覚とその基礎を学ぶことが授業のテーマとなる。		
授 業 の 概 要	本授業は、中学校地理歴史の教員についての知識や方法の基本的知識を講義で学び、地理と歴史の内容や方法に関して、自ら学習指導案や授業実践を演習形式で行うことで教師としての自覚や基礎を身に付ける。		
授 業 計 画	第1回:社会科地理歴史の授業の特色 第2回:社会科地理歴史教師の自覚 第3回:社会科地理歴史教師に求められるスキル 第4回:地理歴史の教材研究と学習指導案の目標の作成 第5回:地理歴史の学習指導案の内容・方法の作成(情報機器及び教材の活用を含む) 第6回:自然地理的内容の模擬授業実践 第7回:人文地理的内容の模擬授業実践 第8回:前近代の模擬授業実践 第9回:近現代の模擬授業実践 第10回:模擬授業実践の振り返り 定期試験		
成 績 評 価 方 法	試験(25%)、学習指導案(50%)、授業態度(25%)、出席(単位認定の資格要件)を総合して行う。		
テ キ ス ト	授業でその都度プリント類を配布する。		
参 考 文 献	文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』東洋館出版社		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	・日本史、世界史の通史に目を通し、最新の歴史学の研究成果を知ること。 ・世界や日本での時事問題に敏感になること。 ・小中高の児童生徒の状況、多様な社会科・地歴科授業の様子についてアンテナを張ること。 ・人前で話す機会を多く持つこと。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	教育実習に行く前に、実際に指導案を書き、授業を行なう授業であるために、履修者が少人数であるほど何度も授業が出来て効果が高まる。そのため、3年生での履修が大変望ましい。		
備 考	旧課程の社会科歴史指導法に対応。		

実施方法：オンライン（オンデマンド型）

授 業 科 目 名	社会科公民指導法(Social Studies, Civics in Junior High School)		
科 目 番 号	9445001	授 業 形 態	講義
単 位 数	1単位	標 準 履 修 年 次	3年次
実 施 学 期	秋 B(12/12、12/19)	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群・学類		
担当教員(連絡先)	唐木清志(karaki@human.tsukuba.ac.jp)		
オフィスアワー	月曜 15:00-18:00		
授業の到達目標	中学校社会科の理論と方法、現代社会におけるその科目の役割を理解することで、授業づくりを進める上での基盤づくりを進めることができる。		
授業の概要	学習指導要領に示された中学校社会科の教育目標と教育内容と、最新の授業づくりの方法について、体験的に理解することを目的として授業を進める。		
授 業 計 画	<p>第1回:学習指導要領にみられる中学校社会科の教育目標</p> <p>第2回:学習指導要領にみられる中学校社会科の教育内容</p> <p>第3回:社会科授業づくりの工夫と学習指導案の作成Ⅰ(発問について)</p> <p>第4回:社会科授業づくりの工夫と学習指導案の作成Ⅱ(情報機器の活用について)</p> <p>第5回:社会科授業づくりの工夫と学習指導案の作成Ⅲ(教材の活用について)</p> <p>第6回:先進的な授業実践に学ぶ社会科授業のあり方と教材研究Ⅰ(ロールプレイング)</p> <p>第7回:先進的な授業実践に学ぶ社会科授業のあり方と教材研究Ⅱ(シミュレーション)</p> <p>第8回:先進的な授業実践に学ぶ社会科授業のあり方と教材研究Ⅲ(フォトランゲージ)</p> <p>第9回:模擬授業から考える社会科授業と評価Ⅰ(ポートフォリオ評価の場合)</p> <p>第10回:模擬授業から考える社会科授業と評価Ⅱ(ルーブリック評価の場合)</p> <p>※授業はオンライン(オンデマンド型)で行う。詳細は manaba を参照のこと。</p> <p>※講義資料は、manaba で配信する。</p> <p>※履修期間を、12/12-1/12 とする。</p>		
成績評価方法	授業への参加状況、および manaba で配信する課題の取り組みをもとに総合的に評価する。		
テ キ ス ト	文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説社会編』東洋館出版社		
参 考 文 献	資料等については manaba を使って適宜配布する。		
授業外における学習方法	授業終了後に授業内容を振り返ること。		
受講学生に望むこと	manaba による学習で理解の困難は予想されるが、アクティブ・ラーニングの意義について理解できるようにする。		
備 考	免許法に基づく中学校(社会)の教員免許状取得に必要な「各教科の指導法」のうちの1単位に該当する。		

授 業 科 目 名	地理歴史科指導法 (Geography and History in High School)		
科 目 番 号	9446101	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	水曜・2 限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学		
担 当 教 員 (連 絡 先)	井田 仁康		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木 3		
授 業 の 到 達 目 標	地理歴史科の教員として地理歴史科の科目の特色を理解し、地理歴史科の授業の基礎を習得することが到達目標である。したがって、テーマとしては、地理歴史科の特色と地理歴史科教員としての授業である。		
授 業 の 概 要	本授業は、高等学校地理歴史科の教科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について理論的に、実践を踏まえながら解説する。また、講義内容に基づいて社会科・地理歴史科の模擬授業を行い、演習の形態とする。		
授 業 計 画	第1回: 地理歴史科の構造 第2回: 地理歴史科に求められる知識 第3回: 地理歴史科に求められるスキルと情報機器を活用した GIS の授業 第4回: 「地理的な見方・考え方」と「歴史的な見方と考え方」 第5回: 「地理総合」と「地理探究」 第6回: 「歴史総合」と「日本史探究」「世界史探究」 第7回: 地理歴史科における教材研究と授業方法の改善 第8回: 学習指導案の作成と教材の活用の仕方と留意点 第9回: 学習指導案の検討 第10回: 学習指導案に基づく模擬授業 定期試験		
成 績 評 価 方 法	学生に対する評価: 試験(30%)、レポート(指導案)(50%)、模擬授業態度(20%)を総合して行う。		
テ キ ス ト	文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』(最新版)		
参 考 文 献	井田仁康他編(2015)『中等社会科 21 世紀の授業実践』学事出版		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	教育関係の新聞記事やニュースをこまめに読むこと。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	教職科目なので、教職に就く、あるいは関心が高いことを前提にしている。それなりの意欲で取り組んでほしい。		
備 考	旧課程の地理歴史科(地理)指導法に対応。		

授 業 科 目 名	公民科指導法(Civics in High School)		
科 目 番 号	9448111	授 業 形 態	講義
単 位 数	1単位	標 準 履 修 年 次	3年次
実 施 学 期	秋 B	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群・学類		
担当教員(連絡先)	小貫 篤(筑波大学附属駒場中学校・高等学校 TEL:03-3411-8521)		
オフィスパワー			
授業の到達目標	公民科の教員として公民科の科目の特色を理解し、公民科の授業の基礎を習得することが到達目標である。したがって、テーマとしては、公民科の特色と公民科教員としての授業である。		
授業の概要	本授業は、高等学校公民科の教科を担当する教員に必要な基本的知識や資質を理論的に、実践を踏まえながら解説する。また、講義内容に基づいて公民科の模擬授業を行い、演習の形態とする。		
授 業 計 画	<p>第1回:公民科の目標</p> <p>第2回:公民科の教科構造と教育内容</p> <p>第3回:公民科における社会的な見方・考え方と教材研究</p> <p>第4回:公民科における「現代社会」(「公共」)の授業の在り方</p> <p>第5回:公民科における「政治・経済」の授業の在り方</p> <p>第6回:公民科における「倫理」の授業の在り方</p> <p>第7回:公民科学習指導案の作成の仕方と留意点(情報機器及び教材の活用)</p> <p>第8回:学習指導案に基づく模擬授業と評価(1)－「現代社会」(「公共」)に関する内容</p> <p>第9回:学習指導案に基づく模擬授業と評価(2)－「政治・経済」に関する内容</p> <p>第10回:学習指導案に基づく模擬授業と評価(3)－「倫理」に関する内容</p> <p>定期試験</p>		
成績評価方法	試験(30%)、レポート(指導案)(50%)、授業態度(20%)、出席(単位認定の資格要件)を総合して行う。		
テキスト	文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』(最新版)		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
授業外における学習方法	授業終了後に授業内容を振り返るとともに、次回の授業範囲と関連する情報を事前に入手して、問題意識を高めた上で授業に参加すること。		
受講学生に望むこと	アクティブ・ラーニングを実施する際には、積極的に参加すること。		
備 考	免許法に基づく高等学校(公民)の教員免許状取得に必要な「各教科の指導法」のうちの1単位に該当する。旧課程の公民科(政治経済)指導法に対応。		